

令和6年度 授業改善推進プラン 第4学年

各教科及び道徳	学力調査等の結果分析 児童の学習状況	指導上の課題	改善の計画	プランの評価方法
国語	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援ソフトを活用して、自分の思考をまとめられるようになっている。書くことが苦手な児童も、積極的に取り組んでいる。 小グループでの意見の交流では、積極的に発言できる児童が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や言語の定着、活用する力の個人差が大きい。 語彙を増やす必要がある。 文法や文章の構成への理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに身に付けさせたい「資質・能力」を明確にする。 新出の語句については、取り上げてきちんと解説する。 読書活動や音読を通して語彙量を増やす。 身に付けた知識、技術を活かす場を意図的に設定し、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストで、80%以上とれているかで評価する。 学習感想の記述（ノート）や、書く活動の作品等で、漢字、文法を正しく使えているかを評価する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活との関わりを踏まえながら学習内容を理解できている。 様々な表現方法を用いて、意欲的に学習内容をまとめる活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会事象の関連と結び付ける力に課題がある。 調べてまとめる活動をする際、分かったことと考えたことの区別できるように指導していく必要がある。 複数の資料を関連付けて考えを形成する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京都の地理的環境、産業と交通網の様子や関係について、関連付けながら理解させる。 わたしたちの健康な暮らしを支える人たちの工夫や努力に気づき、自分にできることを考えられるようにすることで、実行に移せるようにする。 地図や資料での調べ活動を取り入れ、資料の読み取りなどに慣れ親しませる。 必要に応じて、児童の意見を教師が事実と考えに分類して示すことで、児童が区別して考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストで習熟度を把握し、振り返りの学習に取り組んだり、以降の単元の指導に生かしたりする。 振り返りやノートの記述から評価する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを具体的に書き、自分なりに言葉で説明しようとする姿勢が見受けられる。 前学年のベーシックドリル診断テストでは、数の構成や単位換算、簡単な分数の計算は概ね理解できていた。 分からない問題に対しても、粘り強く取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 0があるときの繰り下がりに課題がある。 計算手順が複雑化したときの筆算の方法に課題がある。 円の性質の理解、性質を活用する思考力に課題がある。 表に整理する際、数え間違いが多く見られた。「合計」を確認する指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 単純な計算ミスを減らすために、注意深く丁寧に計算することを心掛ける。 検算や見直しをするようにしていく。 図形問題は、図式化することによって視覚的に性質の理解を図る。 表に整理する際は、チェックをつけながら数えていくことを徹底していく。 タブレットドリルを活用し、習熟をはかる。 宿題などで復習を繰り返し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段のワークテストで80%以上とれているかで評価する。 ノートやホワイトボードに自分の考えを書く時間を確保し、説明ができていかどうかで評価する。 東京ベーシックドリルの診断テストで80%以上取れているかで評価する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習の過程を理解し、実験を行っている。 すすんで実験に取り組もうとしている。 植物の観察では着目する点を示すことで、ワークシートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想をたてるときに、生活経験や既習した内容を根拠に予想を立てたり、仮説を着想したりすることに課題がある。 実験器具の使い方を習得させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことと日常生活の経験を関係づけて考えられるようにし、理科の知識を身近に感じられるようにする。 「理科的用語・知識」を振り返り、プリントなどを活用して定着をはかる。 学習者用端末を実験、観察、調べ学習に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の前に予想をたてる時、根拠を明確にして考えているかを評価する。 ワークテストで理科の用語や知識が定着しているかを評価する。

<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> • どの活動も楽しんでいる。 • 活弁で、のびのびと表現することができている。 • 発表したり一人で演奏したりすることが得意である。 • リコーダーの指づかいを確認しながら取り組むことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> • リコーダーの指づかいが正しくできるよう手だてが必要である。 • 基本的な発声法から、高音域の発声へつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> • リレー形式や「まねっこ遊び」により、リコーダーの基本的な運指と音色の出し方を身に付けさせる。 • 簡単な言葉遊びを通して、音楽づくりを楽しむとともに、互いに聴き合うことによって自分の考えに広がりをもたせる。 • 短時間の協働的な活動において、ルールについて考えさせるとともに、コミュニケーションスキルを培っていく。 • ICT を活用し、地域の民謡など調べ学習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> • ワークシート他の提出物で評価する。 • 協働的な活動の様子と振り返りシートで評価する。 • ミニ実技テストで評価する。
<p>図画工作</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「材料・用具」を生かした技法に興味関心を持ち、主体的に製作している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分や相手の作品に興味関心を持ち、よさやおもしろさを鑑賞し合うことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学習支援ソフトを活用して、製作した作品を鑑賞し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 振り返りシートを使って、製作過程ごとの自己評価や作品の変化を見て評価する。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> • リレーでは、グループでバトンの受け渡し方法について話し合い、スピードにのったバトンパスができるようになってきた。 • 高跳びやマット運動、水泳運動では、自分の課題に合わせた場を選んで練習することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 鉄棒運動、マット運動では、基本的な体の使い方が身に付くようにする。 • 互いの動きの良い点や改善点を伝え合う活動に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 補助運動を計画的に行い、基礎的な運動能力の向上を図る。 • 運動のポイントや手本となるものを提示することで、個人の技術を向上できるようにする。 • 互いの良い点や改善点を伝え合うという視点を与え、伝え合いができていたことを価値づけることで習慣化できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 体育ノートなどの振り返りの記述で「思考力・判断力・表現力」等を評価する。 • 単元を通して学びに向かう力、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」等を計画的に評価する。
<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 外国語に親しみ、楽しく使おうとする意欲が見られる。 • 他国の文化を知り、自国と比べて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 楽しく使おうとする意欲はあるが、児童自らが状況に応じて、「思考・判断」し、試行錯誤させるのが難しかった。言われたことをやろうとするが、状況や意味を考えずに使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学習支援ソフトを使って話す・聞くスキルを高める。 • 学習者用端末を使って発音練習をする。 • 主体的な学びを通して、自分の良いところを伸ばすことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 発言やつぶやき、活動の様子や振り返りの記述で評価する。
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 教材の場面から、登場人物の気持ちを考えている。 • 話し合いを通して自分事として考えたり、自己の行動を振り返ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 教材の登場人物の気持ちを考えることはできているが、自分事として振り返ったときに、自身の生活と関連させて考えられるような指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 展開前半の中心発問で、児童が自分事として考えられるような発問を行う。 • 展開後段で記述したものを活用して、自分を振り返って考える時間を設定する。 • 教員の話をしたり、関連する記事や詩などを紹介したりして、児童が生活と関連させて考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業中の発言、つぶやきで評価する。 • これからの自分について記述できたかで評価する。